

2 基礎・基本の定着のために

「基礎・基本の徹底」は、教育活動の中核になるものである。また、「教える内容を必要最小限の基礎的・基本的な内容に徹底的に厳選」することによって、時間的・精神的な[ゆとり]を実現するとしている。そして、「その厳選された基礎的・基本的な内容については、子どもたちの今後の学習を支障なく進めるために繰り返し粘り強く学習させるなどして、確実に習得させるようにしなければならない。」としている。つまり基礎・基本とは、全ての子どもにどうしても身に付けさせておきたい事柄であり、重要な学習の土台となるものである。これからの教育活動では、この基礎・基本にかかわるポイントを絞り込んだ授業が展開され、その確実な定着が図られなくてはならない。

財部中学校では、基礎・基本の定着や学力向上を図るため授業の改善は不可欠として、

- ① 問題解決的な学習の指導モデル(案)
- ② 基礎・基本の定着を図っていくための基本的な考え方

を示し、授業の改善を図ったり、授業者の意図を明確にしたチェックカードを用いた授業研究などを通して、授業の改善に取り組んでいる。

指導モデル(案)

ア	<p>導入段階 (学習課題を設定する)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の目標を板書する。(当然、目標を定める学習の過程がある) できるなら、疑問文形式で(問題解決的な学習の前提) 「〇〇を△△△するにはどうすればよいか」 「〇〇が△△△なのはなぜだろう」 など(教科によって工夫がいる)
イ	<p>展開段階 (主体的な学習を中心におく、目標の確実な把握が絶対必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動(思考)を中心に据える。(問題解決への試行錯誤、思考力) 活動の結果を発表させる。意見の交換(練りあい)をさせる。(判断力、表現力) 活動への承認と発表を誉める。(学ぶ意欲) 生徒の発表を基に、まとめを板書する。(主体的な学習の仕方)
ウ	<p>終末段階 (まとめ・評価と次時への意欲づけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標の達成度をチェックする。(基礎・基本の習得、授業反省)

基礎・基本の基本的な考え方

基礎・基本を定着させるためには

- (1) 系統性を踏まえて分かりやすく
- (2) 体験的な学習を通して
- (3) 反復練習



自ら学びとる力



生きる力

(1) 系統性を踏まえて分かりやすく

基礎・基本の定着を図るためには、まず学んでほしいことを生徒に分かりやすく明示することが大切である。いくら内容を精選しても、それが生徒に伝わらなければ意味がない。ひとまとめにして理解させた方がよい場合、一つ一つ理解させた方がよい場合、また、それらを結び付けて考えた方がよい場合等、生徒が理解しやすいように筋道を立てて指導していく。そうすることで知識を蓄えるとともに、内容をグループ分けしていく力を身に付けることができると考えられる。

(2) 体験的な学習を通して

学習を進める上で実際に体験することは非常に効果的である。極端ではあるが2時間学習をするよりも1時間の体験学習が大きく効果をもたらす場合がある。教科の中でも効果的に体験的な学習を取り入れることにより、より多くの生徒に理解させることができると考えられる。

(3) 反復練習

学んだことを確実に身に付けるためには、やはり繰り返しの練習が必要である。スポーツにしても学習にしても、一度学んだからといってそれをすぐに身に付けることは難しい。そこで繰り返し練習をして初めて確実に身に付き、それを自分の力として応用していくことができると考えられる。

これらを念頭に置き各教科において授業を組み立てていくことで、基礎・基本の確実な定着が図られ自ら学びとる力の土台をつくっていくことができると考えられる。